

「龍友」第六十二号の発刊に寄せて

学校長 駒 田 勝

令和七年度の教育活動の記録「龍友」第六十二号が完成しました。この冊子は、生徒会執行部が中心となって、本誌の編集、発刊を行っていることを知り、素晴らしい取組であると感動すると同時に、大変誇らしくも感じます。また、この歴史ある冊子の巻頭言を執筆できることを嬉しくも思います。県内の多くの学校では、一年の歩みを振り返り、学校が中心となって主に教職員がとりまとめた冊子が作成されています。本校でも「龍翔」という名で毎年編纂されており、第三十六号の発刊が本年度末に予定されています。皆さんもお気づきのとおり、本冊子「龍友」は、「龍翔」に比べ四半世紀も早く発刊されており、このことには唯々驚くばかりです。発刊当時の生徒会執行部役員の先見の明と意識の高さに、またそれを継承されてきた生徒会執行部役員の努力に、心から敬意を表したいと思います。

本校の教育活動の歴史を、生徒目線でつなぐ本冊子を今年度もお届けできますことは大変な喜びです。毎年の記録の積み重ねは、本校の貴重な足跡です。「温故知新」の言葉が示すとおり、過去の教育活動についてよく調べ、そこから得られた知見を活かした新たな学校教育を創造するための資料ともなり、本校の進むべき方向を示す一助となり得るものです。

さて、昨年度同様、本年度の夏の暑さも極めて厳しく、その暑さは長く続きました。昨年度は、「猛暑」「酷暑」という言葉をよく耳にしましたが、今夏はあまり聞き慣れない「命に関わる危険な暑さ」という言葉を頻繁に耳にしました。実際、日本気象協会の発表によると、今夏(六月～八月)の日本の平均気温は、平年に比べ2.36度も高く、一八九八年(明治三十一年)の統計開始以来、最も暑い夏だったそうです。また、兵庫県における「熱中症警戒アラート」の発令日数は、和歌山県と長崎県の六十五日に次ぐ、五十八日と異常な夏となりました。

このような記録的な「猛暑」「酷暑」の中、授業中や部活動、登下校中の「熱中症」が心配されましたが、本校では大きな事故なく無事にこの夏を終えることができたことを喜ぶと同時に、熱中症防止に向け、適切な水分補給等を心がけ行動していただいた生徒の皆さんに、感謝申し上げたいと思います。

ところで、十月上旬に京都大学高等研究院特別教授の北川 進 博士がノーベル化学賞を受賞されたと、マスコミ各社が大きく伝えました。その時、北川さんがインタビューで語った「幸運は準備された心にのみ宿る」という言葉が話題となりました。これは、フランスの細菌学者 ルイ・パスツールの言葉で、サイエンスの世界だけでなく、私たちの日常生活にも相通じる言葉です。広義では「毎日を丁寧に生きることの大切さ」を教えてくれる言葉ともいえます。数年前になりますが、私が西播磨地区の女子ソフトボール部の支部長をしていた時、姫路女学院高等学校のベンチの後ろに、部旗(クラブの旗)と並んで、「凡事徹底」という言葉が書かれた横断幕が掲げられていました。皆さんも知ってのとおりこの言葉は、①当たり前の事を徹底的に行うこと②当たり前の事を極めて、他人の追随を許さないこと、という意味になります。家電メーカーのパナソニックの創業者で「経営の神様」と言われた松下幸之助さんが座右の銘として用いた言葉としても有名です。また、

メジャーリーガーであったイチローさんの言葉にも、よく似た例えがあります。「小さいことを積み上げることが、とんでもないところへ行くただ一つの道である」と、彼は語っています。あらゆる事は、何も特別な事や、奇抜な事をする必要はなく、誰にでも出来ること、普通のこと、当たり前のことを丁寧にしっかりとやり続けることが、将来の成功に結びつくと言っているのです。そもそも人間のもつ能力自体は、個人でそれほど大きな差はないはずです。もし、差があるとすれば、決めたことを「継続する力」「続ける力」なのかもしれません。古くから使われる「継続は力なり」とは、このことを端的に表した言葉とも言えます。

なお、パスツールはこんな言葉も残しています。「私が目標を達成できた秘訣を教えよう。それはね、絶対に諦めないことだよ」と。実際、北川さんは今回の受賞を「宝くじに当たったわけではない」とも語っています。つまり、この度の受賞は「偶然」ではなく、諦めずに積み重ねてきた結果であり、「必然」であると。

『失敗』と書いて、『せいちょう』と読む。これはプロ野球元監督の野村克也さんの言葉です。野村監督は「人間は失敗をして間違いに気づき、『どうして失敗したのか』と反省し、真剣に考える。この程度で人間は成長するものだ」と述べています。新しい環境に身を委ね、新しいことを始めるには、よほどの自信がなければ常に不安が付きまとうものです。また、不安ゆえに挑戦しなかった後悔は徐々に大きくなるのも常です。

さあ、生徒の皆さん。失敗を恐れず、何事にも挑戦し、まず一步を踏み出しましょう。きっと、その先には皆さんの「進むべき道」があるはずです。今、皆さんは、多くの人に支えられ、将来の礎を築くチャンスが与えられています。そして、本校龍野高校には皆さんの成長の糧となる様々な環境が整っています。このことに深く感謝し、目標を高く掲げ、自らの人生の礎を築かれることを願っています。

最後になりましたが、本誌の発刊にあたり、ご尽力いただきました皆さまに心から感謝申し上げ、巻頭のご挨拶とさせていただきます。